

第10回 9月5日（木）13:00～14:30
新聞記者として生きていくということ



望月衣塑子氏
東京新聞記者

会場：津田塾大学小平キャンパス

<講師プロフィール>

2000年に東京・中日新聞に入社。千葉、神奈川、埼玉の各県警、東京地検特捜部などで事件を中心に取材する。2004年、日本歯科医師連盟のヤミ献金疑惑の一連の事実をスクープし、自民党と医療業界の利権構造を暴く。東京地裁・高裁での裁判を担当し、その後経済部記者、社会部遊軍記者として、防衛省の武器輸出、軍学共同、をテーマに取材。現在、社会部遊軍記者として、入管問題、ジェンダー格差、ロシアのウクライナ侵攻など取材。『報道現場』（角川新書）、2017年に、平和・協同ジャーナリスト基金賞奨励 賞を受賞。2019年度には「税を追う」取材チームでJCJ大賞受賞。

<担当スタッフより>

皆さんは講義終了後に、担当教員に質問したことがありますか？今回は「学び姿勢」について皆さんで考えていきたいと思っています。その上で「質問」というのは私たちが最も主体的に学ぶことができる方法ではないでしょうか？今回の講師である望月さんは東京新聞、社会部の記者としてご活躍されています。望月さんの会見で何度も質問を行う姿には「真実」を追求することへのこだわりを感じます。また望月さんは「相手の話を疑いをもって聞き、追求すること」の重要性について、ご自身の著書や以前のシンポジウムなどでお話されています。自分が与えられている情報や相手が話していることを鵜呑みにせず、自分から情報を獲得しに行こうとする姿勢は私たちが大学という場所で学ぶ上でも非常に重要なことではないでしょうか？望月さんのお話を聞いて、皆さん学生自身の力で、大学の講義がより深いものになり、意義深いものにできるということを実感して欲しいと思います。